



「どう治す？ リンパ浮腫 あなたの悩みにこたえます」

抄録集

平成24年3月20日（火）
13:00～17:00
ホテルプラザ菜の花

NPO法人医療・福祉ネットワーク千葉

リンパ浮腫の手術 顕微鏡を使ったバイパス手術

東京大学形成外科
光嶋 勲（こうしまいさお）

1970 年ごろより顕微鏡を使って直径 1mm の微小血管をつなぐこと（吻合ふんごう）ができたし、指再接着、足ゆび移植による手指再建、失われた顔、あご、筋肉、手足の骨などが復元されるようになりました。これを微小外科手術（マイクロサージャリー）といいます。現在では 0.3mm の超微小血管吻合（スーパーマイクロサージャリー）が可能となり、脂肪・爪・神経などもその栄養血管をつなぐことで生きたままでどこにでも移動できだしました。とくに肉眼ではみえないリンパ管（0.3mm）も 0.05mm の針を使ってつなぐことができたしました。この領域は過去 30 年間日本が世界の最先端をリードし続けており、アメリカ、ヨーロッパに新しい手術を発信しています。

がんの手術では、リンパ節をとることによってリンパ液が心臓に帰らないために手足に浮腫がおこり、それがどんどん悪くなっていくものとされています。この病気は進行性でありそれを改善するための有効な治療法はなかったのです。浮腫には原因不明の特発性浮腫と癌の手術後などの続発性浮腫があります。特発性浮腫は最近、遺伝子レベルでの発生の原因が明らかになりました。リンパ浮腫は症状によって第 I 期から V 期の進行度による分類があります。

治療法としてはこれまでのスリーブやストッキングによる圧迫療法に加え、局所麻酔による顕微鏡を使ってのリンパ管細静脈吻合術（0.3mm 前後の血管とリンパ管を 0.05mm の針で吻合することによって手足にうっ滞したリンパ液を静脈系に流し込む手術）ができるようになりました。この方法はリンパ液の流れる機能（リンパ浮腫ではこれが失われています）を人工的に回復させるものです。わたしたちの 20 年間の治療経験で、帰す能力の残るリンパ管であれば 1 本の吻合で術後長期有効なことがわかりました。機能が残っていない患者さんでも、増悪時に本法を行えば長期間にわたり増悪を抑えることができます。最近では、浮腫発生後早期に手術するとか、子宮癌、乳癌切除と同時の予防的吻合術により浮腫の予防ができ始めています。

今回はリンパ管の解剖やはたらき、リンパ浮腫はどのように発生するのか、進行はどのように、これまでどんな手術があったか、顕微鏡を使ったリンパ管静脈吻合術の実際、術後のケアなどについて説明します。

当院におけるリンパ浮腫治療の現在と未来
千葉大学医学部附属病院形成外科 秋田新介

千葉大学医学部附属病院形成外科ではリンパ浮腫外来を開設し、リンパ浮腫患者さんに対する手術治療を行っています。手術の内容はリンパ管と静脈の間にバイパスを作る方法や、患者さんご自身の健康なリンパ組織をむくんだ腕や脚に移植する方法などがあります。本講演では、当院でどのような手術を行っているのかをお見せし、外来受診から退院に至るまで実際にどのように検査や治療が進んでいくのかをご紹介します。

リンパ浮腫の治療をおこなうことは、蜂窩織炎やリンパ浮腫を放置しておくことによって時に生じることのある腫瘍を予防するといった意味でも大切ですが、多くの患者さんは整容的に良くなることを願って受診されます。私たち形成外科医の使命は、患者さんの悩みに対して機能的、整容的な改善を得ることで、その悩みを軽くして、より元気に、楽しい人生を送って頂くことです。リンパ浮腫を患った方々は腕や脚のむくみ以外にも様々な悩みを抱えていらっしゃいます。

- ①リンパ液が皮膚から漏れてしまって困っている方
- ②リンパ液がお腹の中にたまって困っている方
- ③お腹周りの脂肪が原因で効果的なマニュアルリンパドレナージが難しい方
- ④お腹の皮膚を切開した傷跡が赤く盛り上がるなどして目立ってしまっている方
- ⑤乳房を切除した後の変形で悩まれている方

などは、形成外科医に相談することで悩みを解決できるかもしれません。こういった悩みに対して当院で行っている治療についても併せてご紹介します。

また、現在のところ、リンパ浮腫の治療は手術するだけでどんな患者さんでもすっきりと治ってしまうというような夢のような方法ではありません。保存的な治療や患者さんご自身でのケアもとても大切で、そういった指導をして下さる施設との連携も図っています。また、すっきりと治ってしまう患者さんを増やすための取り組みも行っており、リンパ浮腫の検診を行っています。これは、これからリンパ節の郭清手術を予定している患者さんや、症状はないけど心配だという患者さんに対して、定期的にリンパ管の機能の検査を行うことによって、リンパ浮腫の早期発見、早期治療を目指す取り組みです。どんな病気にも言えることですが、こじれる前に治すことはとても大切なことです。

リンパ浮腫の治療は日々進歩していますが、今現在、リンパ浮腫で悩んでおられる方をよりよくしていくことと、将来、重いリンパ浮腫で悩む人を少なくすることの両方を目標に掲げて、治療に取り組んでおります。本講演が、みなさまのリンパ浮腫の治療に対する理解や、治療に取り組む意欲の一助となれば幸いです。